

学生と教員の協働による実践的心理学研究

背景・目的

本教育研究課題は、学生と教員の協働を通して、実践的な心理学研究を展開するものである。そこには、「心理学は、机の上だけでは学べない。」という心理行動科学科のモットーが反映されている。ここでは、本教育研究課題の主要な活動の1つとして位置付けられている「MG-P スクエア」について報告する。

「MG-P スクエア」は、2013年度から開催されるようになった、心理行動科学科合同研究発表会であり、今回で2度目の開催となる。この発表会では、本学科に在籍する全ての学生がゼミや学年の垣根を越えて自由に参加・発表を行うことが可能である。主に「学科の教員や他の学生との協働による協調性」「一般の方々に対する研究成果の説明による情報伝達のスキル」などの育成が期待される。また、参加者相互の発表と質疑応答を通じて、学科内におけるタテの交流が促進され、通常の授業では得られないような教育効果も期待される。

実施内容

1年生：「ディズニーを心理学する」「義援金を寄付する心理 in 2014 Vol.2」など、「ココロサイコロ 2014」で発表された研究をブラッシュアップした内容の一部を発表した。

2年生：2年次の「心理行動セミナー」で実施された研究の一部である「視覚トリック体験～スマホでトリック動画を撮りましょう～」を発表した。

3年生：「テレビドラマの変遷から見る時代の心理」「シャイネスの高低と友人選択の関連～自己と友人の性格類似度に着目して～」 「理想の女性像～男女における捉え方の違いの観点から

～」など、3年次の「心理行動セミナー」で実施されたプレ卒業研究の一部を発表した。

4年生：「空間周波数解析による男性手の甲画像の年齢推定」「怒っていることを友人に話すと怒りはおさまるのか：友人の反応が結果を左右する？」「泣き虫に慰めのことばをかけるか？」など、完成して間もない卒業研究の一部を発表した。

その他：「閑上ってどんな町？～歴史と文化そして3.11を振り返る～(閑上プロジェクト)」「無意識を見てみよう(測定体験コーナー)」など、ゼミや学年の垣根を越えて組まれたプロジェクト研究についても発表を行った。



図. MG-P スクエアでの発表の様子

結果及び考察

今回は、全ての学年から発表のエントリーがあり、各々の発表からはそれぞれのゼミや学年の特色が垣間見られた。その一方で、ゼミや学年を越えたプロジェクトが生まれ、1つのテーマについて様々な視点からまとめられた研究が発表された。これらのことから、協働による協調性や情報伝達のスキルの獲得、および学科内のタテの交流の促進がなされていたのみならず、心理学の研究対象が非常に多岐に渡っていることを体験的に理解できたことが示唆される。